
これからも、ずっと・・・

田中タロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

これからも、ずっと・・・

【Nコード】

N3485I

【作者名】

田中タロウ

【あらすじ】

サナは幼馴染の蓮が好き。でも蓮は自分のことをどう思っているかわからなくて・・・

（「18 years」第1部の番外編ですが、短編としてもお楽しみいただけます）

「春・・・出会いの季節・・・彼氏ほしー！」

「美香つてば最近そればつか。私達受験生なんだよ？そんな暇ないでしょ」

「サナはいいよねー。あんな素敵な彼氏がいるんだもん」

「・・・それって蓮のこと？」

「当たり前でしょ。超かっこいいよね、岩城君」

私は苦笑した。

家が隣同士の岩城蓮は確かに「素敵」だけど私の「彼氏」じゃない。ただの幼馴染。

蓮はイケメンだし、空手強いし、口は悪いけど優しい。

それに勉強だつてすごくできる。

蓮は「貧乏人は勉強ぐらいしかすることない」なんて言ってるけど、私は知ってる。

蓮の家はお金はないけど、本当は大学に行きたいんだ。

いい高校行って、いい大学行って、いい会社入って、いっぱい稼ぎたいんだ。

そしてお母さんに早く楽をさせてあげる・・・それが蓮の夢。

小学校の卒業アルバムに「将来は大企業に入りたい」って書いてみんなに笑われてたけど、それは蓮の優しさ。

私は机の上の教科書に視線を落とした。

蓮はどこ的高校行くのかな？
やっぱりトップのS高かな？
それとも空手の特待生で私立かな？

どちらにしても私は一緒には行けないだろうな。

私は物心ついた頃からずっと蓮のことが好きだった。

大人になったら蓮のお嫁さんになるんだって本気で思ってた。
蓮もそう思ってるんだって信じて疑わなかった。

でも成長するにつれ、

幼馴染でいつも一緒だからって相思相愛になって結婚するなんて
そんなことほとんど有り得ないってわかってきた。

それでも私は蓮が好きだった。

中学1年の終わりごろ、偶然、蓮がすごくかわいい先輩に告白され
てるのを見てしまった。

照れくさそうにしている蓮を見てられなくて、
なんて返事するのか聞くのが怖くって、
私は走ってその場を逃げた。

結局、蓮は先輩とは付き合わなかったみたいだけど、
その時初めて、疑問に思った。

私って蓮のなんなんだろう・・・

当たり前のようにいつも一緒にいるけど、

「好き」とか「付き合おう」とか言ったことも言われたこともない。

それ以来、私は蓮のこととなると悪い想像ばかりした。

蓮が他の女の子と話してるのを見ると、

「ああいう子がタイプなんだ」って思ったり、

私という時より楽しそうな顔で男友達と話してるのを見ると、

「私のことなんてどうでもいいんだ」って思ったり・・・

私って嫌な奴だ。

ピンポーン

夜の7時。

家のチャイムがなった。

扉を開けると、

「腹へったー。今日の飯なに？」

と、無邪気な顔をした蓮が入ってきた。

うちも蓮のともも母子家庭で、お母さん達は夜も仕事をしている。

だから夕ご飯は蓮と二人で食べることが多かった。

作るのももちろん私。

蓮に「おいしい」って言うってもらいたくって、

料理だけは本気で頑張ってる。

今日は蓮の大好きなオムライスだ。

「おー。うまい！ありがとな」

嬉しそうにパクパクと食べる蓮を見てると、こっちまで幸せな気持ちになってくる。

「蓮ってやっぱりS高ねらうの？」

「うん」

「蓮なら絶対受かるよね。S高に入れたら、きっと大学もいいところいけるよ。」

「そしたら大企業就職も夢じゃないね」

「・・・それって小学校のアルバムの話？」

「そうだよ」

「そんなもん、よく覚えてるな」

覚えてるよ。当たり前じゃん。

「そういえば、サナは『お嫁さん』って書いてたよな」

え？覚えてるの？

「あれはつけた。幼稚園の卒業アルバムじゃあるまいし」

蓮は楽しそうに笑った。

本当は「蓮のお嫁さん」って書きたかったんだけど、

さすがに恥ずかしくって書けなかったんだ。

「サナは？」

「え？」

「サナはどこの高校受けるの？S高？」

「無理だよ、S高なんて。受かるわけないでしょ」

「なんでだよ、一緒にがんばろーぜ」

なんでそんなこと、さらっと言うかな？

蓮は、別に高校まで私と一緒にじゃなくてもいいでしょ。

隣に住んでるんだから会いたきゃいつでも会えるし、夕ご飯くらいちゃんと作ってあげるよ。

そんな自虐的なことを考えてたら泣きそうになった。

「・・・考えとく」

そう言うのが精一杯だった。

涙をこらえて俯いてると、視界の中で何かがスツと動いた。

気がつく・・・

目の前に蓮の顔があった。

あれ？

私、もしかして今キスされてる？

時が止まったみたいだった。

一瞬にも永遠にも感じるキスの後、蓮がつぶやいた。

「なんでそんなこと言うんだよ」

「・・・」

「今までもずっと一緒だっただろ。これからもそうじゃないのかよ？」

「・・・」

「って、そう思ってるのは俺だけ？」

蓮が切なそうな顔をする。

胸が詰まって言葉が出てこなかった。

だから私は返事のかわりにキスで答える。

ずっと一緒だよ、これからも、ずっと・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3485i/>

これからも、ずっと・・・

2010年10月11日20時38分発行